



住む人も、訪れる人も、もっとワクワクできる新潟市に

次世代のまちづくりに 向けて

150年をかけて形成されてきた都心軸（新潟駅～古町）を、
次世代のアイデンティティに

新潟は、かつて奉行所があった古町エリアから
新潟駅へつながる「都心軸」を中心に発展を遂げてきました。

開港150年を契機として、この軸の重要性を再認識し、
軸周辺のゾーンが、それぞれ魅力をさらに増進させることが求められています。
そのために、多様な主体によるまちづくりを行うことでエリア全体に賑わいがもたらされ、
都心軸が次世代のアイデンティティとなるように取り組んでいきます。

現在、新潟市では、新潟駅周辺整備や万代島賑わい創出など各プロジェクト間で
都市デザインの理念を共有することで、連携して具体的な取り組みを進めています。

これからは、『新潟都心の都市デザイン』のもと、市民をはじめとした多世代、
多分野の人たちが同じ将来ビジョンを共有しながら、
エリア全体で統一感があり魅力あるまちづくりに取り組むことが必要です。
また、都心エリアでの様々なプロジェクトについても、
人を中心とした空間づくりや新たな賑わい創出に向けて、
多分野のヒト・モノ・コトがつながり、新潟の暮らしがより快適で
豊かなものとなるように、官民連携で取り組みましょう！

【発行・問い合わせ先】

新潟市 都市政策部 都市計画課

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602番地1

TEL:025-226-2679

mail:tokei@city.niigata.lg.jp

新潟市HPで

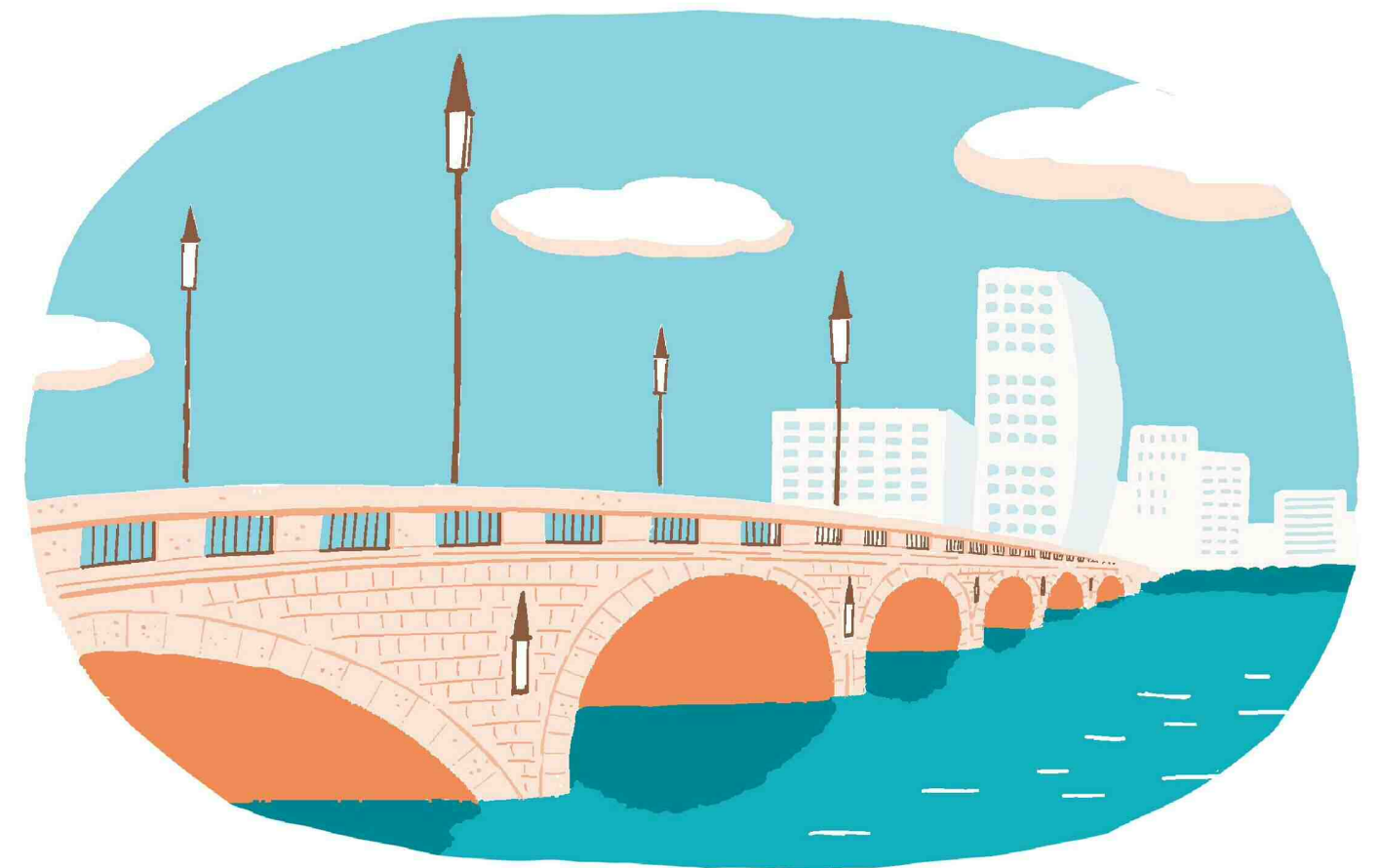
都市デザイン

検索

令和元年5月

新潟都心の 都市デザイン

概要版



古くから湊町として栄えてきた新潟は、開港から150年という大きな節目を迎えました。

今後は、これまでのまちづくりの歴史を継承・発展させ、

次世代のまちづくりに活かせるよう都市をデザインすることが必要です。

新潟駅から始まる「人を中心とする新しい新潟の軸」を将来、

新潟のアイデンティティとするため、新潟都心の都市デザインが今動き始めています。

都市デザインのイメージ

5つのゾーンそれぞれで特徴あるまちづくりを展開

かつて信濃川に平行して堀と通りが設けられ、それが新潟の都市構造となったように、今度は新潟駅から信濃川、そして古町へと向かう新潟の軸として都心軸・副軸を中心に新たなまちづくりを進めていきます。

次の150年を見据え、新潟駅から古町までの約2kmにわたってそれぞれのゾーンで特色あるまちが展開され、通して歩くとみなとまちの発展の歴史と個性を理解でき、将来は都心軸が新潟の都市イメージになるように軸沿いのまちづくりを進めます。

副軸 弁天ルート (水辺・賑わいゾーン)

沿道の店舗と連携して、訪れた人がより開放的な賑わいや、新潟らしさを感じながら水辺へと誘われる仕組みづくり

新潟らしさ演出



都心軸 東大通ルート (新潟駅・万代広場ゾーン)

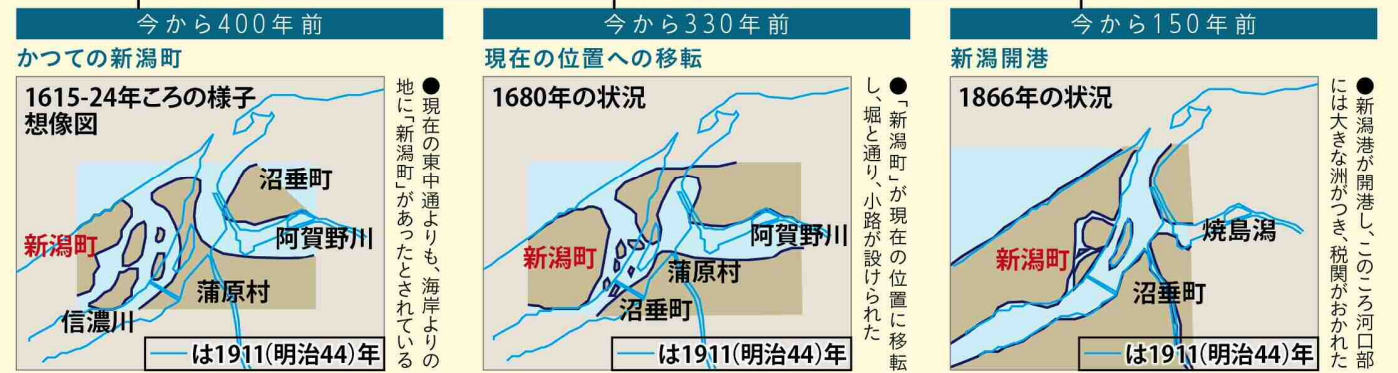
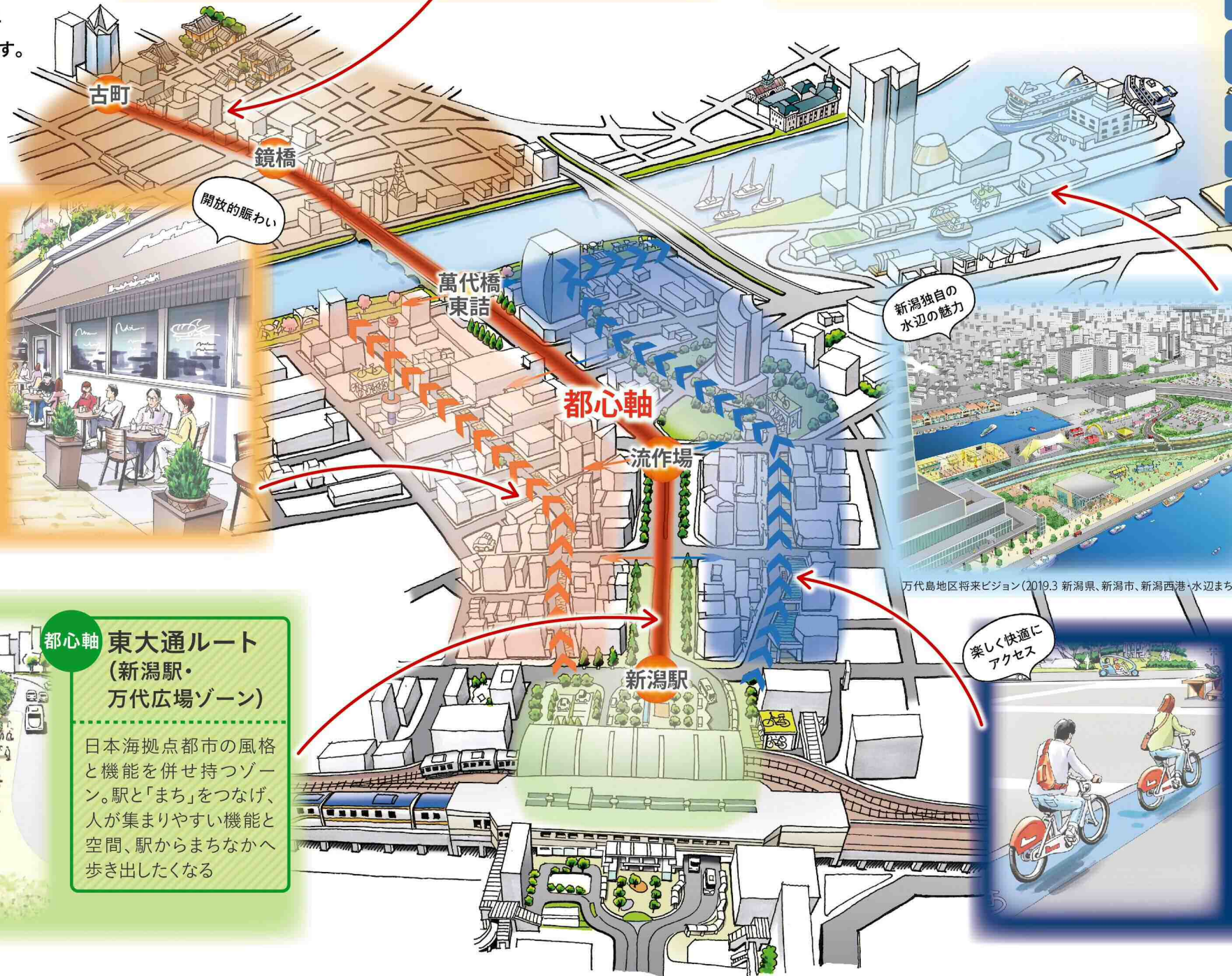
日本海拠点都市の風格と機能を併せ持つゾーン。駅と「まち」をつなげ、人が集まりやすい機能と空間、駅からまちなかへ歩き出したくなる



歴史・文化的街並み

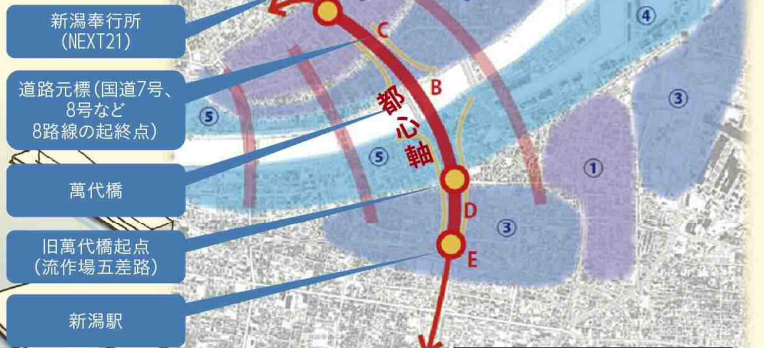
旧市街地・開化ゾーン

古町から萬代橋東詰まで。“堀～通り～小路の町割り”や“みなとまちの歴史・文化的な街並み”、“花街文化・食文化”を活かす、様々な都市機能の集積・回帰によるまちづくり



信濃川の恵みにより発展してきた新潟は、川がもたらす砂と水への対応を通じて、都心が信濃川に沿って層状に広がってきた (横の都市づくり: ①→②→③→④→⑤)

一方で、信濃川の流れに向かって、垂直に交わる「都心軸」を形成し、エリアのつながりを深めることで、新潟の都心は発展の礎を築いてきた (縦の都市づくり: A→B→C→D→E)



都心軸の形成

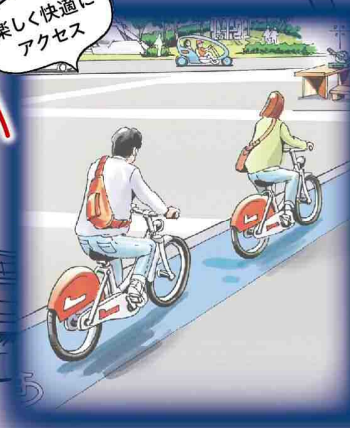
- A: 江戸時代(奉行所、堀、小路)
- B: 明治時代(萬代橋)
- C: 昭和初期(証谷小路を新潟の軸)
- D: 昭和中期(新しく新潟駅と東大通)
- E: 平成(新潟駅の高架化、周辺整備)

水辺ゾーン

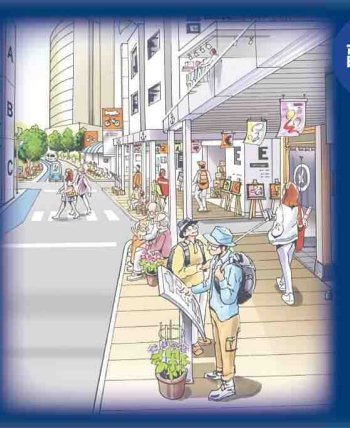
信濃川・西港の水辺空間を新潟独自の魅力として磨き上げ、周辺の空間と一体的につなぎ、まちなかの賑わいを創出

副軸 花園ルート (港・創造ゾーン)

新しくなにかが創り出される雰囲気を感じられる。駅から港へつながる雰囲気づくりや、楽しく快適にアクセスできる環境を創出



楽しく快適にアクセス



図は、コンセプトを共有しやすくなるための案であり、あくまでイメージです。